

2003年7月18日発行

熊本県地域福祉メールマガジン

月刊「みんなでたのしく輪になって」No. 7

【発行】 熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課地域福祉企画班

いつのまにか夏本番というむし暑さですが、いかがお過ごしでしょうか。
今年の梅雨は言葉どおり雨の日が非常に多く、高温と多湿で早くもバテ
気味の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

そんなときはひととき手を休めていただいて、地域福祉メルマガに目を
通して、地域福祉に頑張っている方々からパワーをもらうのも
いいかもしれません。

目次

市町村情報

玉名市 今、玉名が熱い！！

～玉名地域における先進的な地域の取り組みを

3本立てでお送りします～

トピックス

平成17年度(第14回)全国ボランティアフェスティバルの熊本県開催が決定しました

市町村情報

玉名市 今、玉名が熱い！！

～玉名地域における先進的な地域の取り組みを3本立てでお送りします～

玉名市における、様々な地域の取り組みを3つまとめてご紹介します。

6月1日、玉名市の高瀬商店街に、肥後高瀬もやい処がオープンしました。ここはミニデイサービスを行うほか、商店街を利用されるお年寄りの「商店街に休憩所やトイレがほしい」という声に応えて、年中無休のふれあいサロンとして機能し、誰でも利用できる休憩所、お茶のサービス、お年寄りや車椅子の方でも利用しやすいバリアフリーのトイレがあります。高瀬商店街は老舗が建ち並ぶ昔ながらの商店街といった雰囲気でしたが、最近はシャッターを閉めている店もちらほらとあり、玉名市空地空店舗対策事業を利用して今回の「もやい処」のオープンとなりました。行政、商店街、社会福祉法人が一体となってこれからのまちづくりを考えた結果の事業で、地域に密着したサービスを目標に掲げて努力中とのことです。

もやい処は、元々呉服屋だったところだということで、外見は呉服屋そのものです。店内も呉服屋の雰囲気を大切にしておられ、休憩所の椅子や部屋の飾りも和風で統一されていたり、介護用品を展示してあるシ

ヨーケースも呉服屋時代のものをそのまま利用されているそうです。

もやい処を運営している社会福祉法人天恵会（天水町の特別養護老人ホーム 有明ホーム運営）の杉谷副施設長曰く、「施設は郊外に作られることがあるが、高齢者だから田舎が好きだとは限らない。誰でも、年を取っても自分が生まれ育ったところで暮らしたいはず。高瀬商店街には公民館がないので、地域の皆様の交流の場としても活用していただきたい。」とのこと。高瀬地区は高齢化率が33%と非常に高い地区とのことでしたので、もやい処は地元のお年寄りや買物客の憩いの場として活躍してくれること間違いなしでしょう。6月に開かれた高瀬地区の菖蒲祭りのときにはすごい人手だったそうです。

肥後高瀬もやい処

玉名市高瀬本町224-2（高瀬商店街内）

0968-71-1077

また、玉名市駅前通りでは、同じく空き店舗を利用したまちの保健室「イコイバ」が5月19日から中高校生のつどいの場となっています。まだ大々的な広報をしていないため口コミでの広がりを見せているとのこと。ここでは、玉名地域振興局保健福祉環境部の職員、看護協会有明支部の会員のほか近くの九州看護福祉大学の学生が日替わりで中高校生の悩みを聞く、ピアカウンセリングを行っています。でも、利用者が多く訪れるのは学生が“店番”をしているときなんだそうです。以前はブティックだったということもあり、店の雰囲気は明るく、店内の飾りも大学生と利用者の手作りで、利用者が自由に意見を述べるらくがき帳もおいてありました。そして、気軽に相談に乗ってもらえるよう、大学生はそれぞれ自分の名札（愛称）を首から下げているそうです。現在は女子高生の利用ばかりとのことで、スタッフも女性が多かったため、男子学生のスタッフを増加させることで男子学生の利用につなげたいとのことでした。

この他にも、有明保健所では高校の思春期保健出前講座の時にメールアドレスを渡してメール相談を受け付けており、1年間で約200件の着信があったそうです。

イコイバ

玉名市中４６番地（ＪＲ玉名駅から商店街へ向かって徒歩２分）

（イコイバ携帯）０９０－５９４７－２０５０

また、同じ高瀬地域にはNPO法人地域たすけあいの会が開設した「多機能型福祉ホーム 高瀬ハウス」があります。ここでは、子育てサポート、障害者・高齢者の生きがいづくり、異年齢の文化交流の場と、赤ちゃんからお年寄りまで誰もが気軽に出かけられ、遊びに来られる“たまり場的な空間”としてのスペースを地域に提供しています。「地域たすけあいの会」は９８年に発足し、９９年にNPO法人の認証を受けました。高瀬ハウスは眼鏡店ビルの２階にあり、階段を上ると手前の部屋は広いリビング風の多目的スペースとなっており、会議室や展示会、みんなでわいわい楽しめるイベントなどに使われます。奥には、ヘルパーステーションやシャワー室、さらには空き店舗対策だけあって昔のカラオケルームの名残がある保育ルームなどがあります。活動内容としては、訪問介護やデイケアなどのフォーマルサービスの他に、商店街のお祭りがあれば、地元大学の学生と一緒に子供たちが楽しめるイベントを組み立て、商店街の各店舗の特徴をつかんだ川柳を作り、巨大カルタ大会を開くなど、様々な活動をされています。

高瀬地区でも少子高齢化が進んでおり、対象を絞った福祉サービス提供の提供よりも地域で生活しているすべての人々に焦点をあてた、多機能な福祉サービスが求められています。そのような地域の中で「たすけあいの会」では、２４時間３６５日、地域からＳＯＳコールがあがれば、“NO”を言わないという信念を持って活動に取り組んでいるそうです。これから小学校は夏休みを迎えますが、学童保育を行うとのことであり、子ども達が遠くの親戚の家などに預けられることなく、地域で暮らせるようにしていきたいとの事でした。高齢者についてもよく「家の外に出ましよう」などと言われますが、外出するには行き場がないと行けません。「高瀬ハウス」が高齢者の方々の居場所として利用してもらえれば、ともおっしゃっていました。

多機能型福祉ホーム高瀬ハウス

生活支援センターささえあい

玉名市高瀬５４２ 開眼ビル２Ｆ

０９６８－７１－００５６

トピックス

平成17年度（第14回）全国ボランティアフェスティバルの熊本県開催が決定しました

昨年12月に熊本県社会福祉協議会から全国社会福祉協議会に対し要望されていたところですが、7月10日に本県での開催について正式決定通知がありました。

このフェスティバルは、ボランティア活動に関心のある人々や日頃ボランティア活動を実践している人々が全国から集い、フェスティバルの様々なプログラムを通して交流を深めながら、全国にボランティア活動への理解と参加をアピールし、ボランティア活動が全国各地で一層盛んになることを目的として開催されるものです。

県民の意識や地域のニーズが多様化している中、NPOやボランティアとのパートナーシップは、豊かな熊本づくりにとって欠くことのできないものとなっています。

そのような中で、県としましても、このフェスティバルの開催をひとつの契機として、県内各地域でのボランティア活動の輪が広がることを期待しているところであり、今後県社協をはじめ関係機関とともに実行委員会を組織し、フェスティバルの開催を支援していくこととしています。

なお、具体的な実施内容については、今後実行委員会等で検討していくこととなりますが、先催県の例を参考にしますと、熊本市近郊のメイン会場でのシンポジウム・講演会のほかに、県内各地域においてブロック会場を設けテーマ別の集いや交流広場を開催することなどが考えられます。

””平成17年秋

熊本からボランティアの熱いところを発信します！！””

熊本県地域福祉メールマガジン
月刊「みんなでたのしく輪になって」 No. 7

【発行】 熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課地域福祉企画班

記載内容に関するお問い合わせ、情報提供、ご意見、配信の
解除、メールアドレスの変更など一切の連絡は、熊本県健康福祉部
福祉のまちづくり課地域福祉企画班へお願いします。

E-mail: fukusimati@pref.kumamoto.lg.jp

TEL: 096-383-1185

FAX: 096-387-5992